

主 な 自 由 意 見

1 訓練想定, 内容など

- ① 原発災害は地震や火災と違い経験が無いので、なかなか想像しづらいところがあるが、今回の訓練は現実感があり勉強になった。
- ② 事前説明が不十分、訓練内容を明示してから参加者を募ってほしい。説明日から申し込み締切りまでの日数が短い。
- ③ いざという時に直ぐ出来る訓練で役に立った。
- ④ スムーズに対応するためには、自治体と連携した地域コミュニティの協力が不可欠。
- ⑤ バス移動が多いので、車内設備（DVD）を使用した原子力広報ビデオなどの上映があってもいいかと思う。

2 広報

- ① 訓練の放送はゆっくり2回は繰り返して欲しい。屋外ではよく聞き取りにくい。
- ② 屋内退避の指示等の際、放送が雑音（ザーツという音）で聞き取りにくい。

3 避難

- ① 漁業中の避難方法が気になる。
- ② 長距離歩けない人が集合場所までいくのにどうすればいいか。
- ③ バス内での説明が聞き取りにくい。ハンドマイクが必要。
- ④ 屋内退避と避難所へのタイミングなどが良く分からない。
- ⑤ 全員が避難するとなると、車等の混雑等が心配される。

4 避難退域時検査

- ① 避難退域時検査場所での検査の際、もう少し大きな声で対応して欲しい。
- ② 避難退域時検査で車の検査等の流れがみられて良かった。

5 避難所

- ① 避難所の受け入れ対応について、受付方法の説明がない・分かりにくかった。
- ② 避難所に何があって何が無いのか何が必要なのか、ペットは可なのかどうか知りたかった。
- ③ 今回の避難場所はあまりにも遠すぎて、とても非現実的だ。高齢者にとっては、トイレ、食事など避難途中が大変だ。

6 その他

- ① 放射線について少し興味を持って生活していこうと思った。
- ② 実際に、一連の避難訓練に参加することにより自信がついて他の人（高齢者等）の手助けができると思う。
- ③ 段ボールベッドの組み立てがとても簡単にできてびっくりした。寝心地もよく、避難では重宝すると感じた。

I-16 外部委託（第三者機関）による評価 概要

1 訓練評価概要

(1) 評価目的

令和元年度鹿児島県原子力防災訓練を通して、原子力災害発生時における国、県、市町、原子力事業者等の緊急時対応を評価し、防災体制の実効性の確認及び地域防災計画、避難計画、マニュアル類の検証並びに改善等に資すること。

(2) 評価実施時期

令和2年2月9日（日）

(3) 評価対象訓練

下記の訓練を対象として評価を実施した。

ア 災害対策本部等設置・運営訓練（以下、「本部訓練」）

- ・ 県災害対策本部の設置・運営訓練（以下、「県本部訓練」）
- ・ 薩摩川内市災害対策本部の設置・運営訓練（以下、「市本部訓練」）

イ オフサイトセンター（以下、「OFC」）関係

- ・ 現地災害対策本部設置・運営訓練（以下、「県現地本部訓練」）
- ・ オフサイトセンター参集・運営訓練（以下、「OFC機能班訓練」）
- ・ 緊急時モニタリング訓練（オフサイトセンター）（以下、「EMC訓練」）

ウ 住民避難関係

- ・ 避難退域時検査・原子力災害医療訓練
- ・ 避難・避難誘導・屋内退避訓練
- ・ 避難所等設置訓練

※ PAZ避難、薩摩川内市UPZ一時移転（薩摩川内市、日置市）に関する評価員評価については、3訓練を一体で実施した。

(4) 評価方法

参加者自己評価及び第三者評価による評価結果を基に、良好事例と助長策、並びに改善すべき事項と今後の対策を抽出する。

訓練項目毎の評価手法と評価員配置を下表に示す。

訓練項目		評価手法	評価員派遣場所	人数
県本部訓練		A, C	鹿児島県庁	1
市本部訓練		A, C	薩摩川内市役所	1
OFC関係	県現地本部訓練	A, B, C	OFC	3
	OFC機能班訓練	A, B, C	OFC	5
	EMC訓練	A, B, C	OFC	1
住民避難 関係	PAZ避難	A, C	薩摩川内市 →鹿児島市	1
	UPZ一時移転 (薩摩川内市)	A, C	薩摩川内市 →始良市	1
	UPZ一時移転 (日置市)	A, C	日置市	1
	上記以外	A	—	—

評価手法 A：参加者アンケート，B：訓練振り返り，C：評価員評価

(5) 重点評価項目

ア 重要事項に関する情報伝達・共有

事業者通報，国からの要請等，原子力災害対応を行う上で特に重要な情報が適時適切に，組織内外に伝達，共有されているかを確認する。

イ 住民避難等の実動訓練

PAZの住民避難，UPZ一時移転等を各拠点において計画どおりに実施しているかを確認する。

ウ 防護措置の実施方針案の作成

住民安全班及び県現地本部を主体に，関係組織が連携して期待される時間内に期待される内容のGE防護措置実施方針案及び一時移転の実施方針案を作成できたかを確認する。

エ 各組織における役割分担，作業指示

県現地本部，各機能班において，役割分担，及び優先順位を意識した作業指示が実施されていたかを確認する。

(6) 評価の基本方針

評価に当たっては，内閣府（原子力防災担当）が策定した「原子力防災訓練の企画，実施及び評価のためのガイダンス」（平成30年3月）及び「原子力防災担当者のための訓練実務マニュアル<本部等運営訓練編>（試行版）」（平成31年3月）を踏まえ，訓練参加者の活動実績と活動のプロセス，並びに訓練方法の評価を行った。

2 訓練成果の全体考察

(1) 良好事例

ア 県本部及び市本部運営訓練では，災害発生と事態進展に応じた本部運営，並びにTV会議による情報共有が実施された。

イ OFCでは，県現地本部，機能班及びEMCが連携し，また情報機器を活用して住民防護措置に関する意思決定や情報共有が行われた。

ウ 住民避難訓練では，おおむね遅滞なく，計画された住民避難や一時移転が実施された。

(2) 課題と対応策

ア 訓練時期

改善すべき事項	今後の対応案
● 寒さやインフルエンザ流行等を考慮し、年明けの時期は避けるべきとの意見がある。	・ 準備期間も考慮し、10月～11月での開催を検討する。

イ 訓練内容と日程

改善すべき事項	今後の対応案
● 時程が異なる実動訓練と図上訓練の同時開催は、メリットが少なく、混乱を招く。また、1日で初動から一時移転までを行うのではなく対象を絞るべきとの意見が見られる。	・ 訓練は連続、又は日を離れた2日間として、1日目は図上訓練、2日目は実動訓練とするなど、日程を分け、図上訓練は対象とする事態を絞ることなどを検討する。

ウ 事前準備

改善すべき事項	今後の対応案
● マニュアル・手順書の未整備、シナリオや想定の設定・周知遅れ、会場設営、要員の役割分担、要員連携手順、資機材等の準備不足による混乱が見られた。 ● 避難退域時検査での測定器の電池入れ忘れ、安定ヨウ素剤配布漏れ等の実災害時には問題となる事例が見られた。	・ 今年度の課題と対策を整理して、訓練に必要なマニュアル類と次年度の訓練計画の案を、第一四半期を目途に、関係者で検討、調整し、訓練に向けて練り上げ、訓練のおおむね1か月程度前には決定して周知する。 ・ チェックリストを用いた会場・資機材の準備状況確認の実施、訓練参加に必要な知識や技量を習得するための研修やリハーサル開催と参加促進などを検討する。

3 訓練項目別の成果と課題

(1) 県本部訓練

本部運営、役割分担、重要情報伝達などは適切に実施されていた。一方で実災害時を考慮すると、より一層の練度向上と情報共有の促進が求められる。